

# 令和8年4月から3歳児健診で目の<sup>くっせつ</sup>屈折検査を開始します！

## ○屈折検査とは？

近視・遠視・乱視及び斜視<sup>しゃし</sup>の可能性がないかどうかを調べる検査です。

赤ちゃんのときはほとんど見えていなかった目の機能は、3歳頃までに急速に発達し、6～8歳くらいでほぼ完成します。

そのため、視力の発達の妨げ<sup>さまた</sup>となる弱視（眼鏡をかけても十分に視力が出ない）を早期に発見し、適切な治療を開始することが、お子様の目の健康にとって大切です。

## ○検査方法は？

お子様は保護者に抱っこされた状態のまま、カメラで写真を撮られる感覚で検査ができます。（検査全体で30秒～1分程度）

1. 保護者と一緒にいすに座ります。
2. ピカピカした光とピヨピヨという音がでるので、検査機器をまっすぐ見ます。
3. 10秒ほどで測定は終わりです。

※眼鏡等で治療中の方は、当日職員にお申し出ください。

※機器の性質上、照明を落とした場所で検査を行います。また、機器から発せられる明るい光を見て行う検査のため、暗室が苦手または光に敏感なお子様は、当日職員にご相談ください。

## 【用語の解説】

近視：遠くがぼやける状態      遠視：近くがぼやける状態

乱視：距離に関係なくぼやけたり二重に見えたりする状態

斜視：視線が同じ目標物の方向を見ていない状態

【屈折検査機器】



【検査のイメージ】

